松脇 隆博

NAOSITE: Nagasaki university’s Academic Output SITE
http://naosite.lb.nagasaki-u.ac.jp
論文審査の結果の要旨

<table>
<thead>
<tr>
<th>報告番号</th>
<th>博(医歯薬)乙第36号</th>
<th>氏名</th>
<th>松嶋隆博</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>学位審査委員</td>
<td>主査</td>
<td>川上純</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>副査</td>
<td>永安武</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>副査</td>
<td>高村昇</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

論文審査の結果の要旨

1. 研究目的の評価
本研究の目的は、Sheehan症候群の発症に関与する産科的要因を、臨床指標、ホルモン値、下垂体MRIを用いて解析することであり、目的は十分に妥当である。

2. 研究手法に関する評価
2006年以降に分娩時大量出血後のSheehan症候群3例（Sheehan群）および分娩時大出血にもかかわらずSheehan症候群を発症しなかった6例（non-Sheehan群）を対象とした。両群間でのホルモン欠落状態、産科DICスコア、総出血量、ショックインデックス（S.I）、意識レベル、下垂体前葉ホルモン、エストラジオール(E2)、インスリン様成長因子-1(IGF-1)、遊離サイロキシン(FT4)、コルチゾールおよび下垂体MRI所見を比較し、Sheehan群の特徴を明らかにするものであり、研究手法は妥当である。

3. 解析・考察の評価
上記手法で解析した結果、Sheehan群では下垂体ホルモン欠落症状、産科DICスコア高値、有意な意識レベルの低下、IGF-1低値、E2低値、低Na血症、下垂体MRI異常所見を呈することが明らかとなった。今後のSheehan症候群の早期診断および治療に関する研究への進展が大いに期待される。

以上のように本論文はSheehan症候群の早期診断および治療に関する研究に貢献するとところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。

（注）報告番号は記入しないこと